

少年非行の防止について

楽しい夏休みに潜む危険

誰しも次代を担う子どもたちが健全に育って欲しいと願っていると思います。しかし、子どもはささいなことをきっかけに非行に走ったり犯罪被害に巻き込まれたりする可能性があります。夏休みはこうしたリスクが増える時期であり注意が必要です。そこで、子どもの非行や犯罪被害を防ぐため、大人に何ができるのかこの機会に考えましょう。

危険が潜むインターネット

インターネット上では役立つ情報が得られる一方、アダルト画像など有害な情報も数多く存在します。また、ネット掲示板などのコミュニティサイトにでは気付かないうちに個人情報を知られてしまうなど、さまざまなトラブルが生

じる危険があります。ここでは、保護者ができる3つのポイントを紹介いたします。

①ペアレンタルコントロール

子どものスマートフォンなどの使用状況を保護者が把握したり、安全管理を行ったりするもので、さまざまなアプリが提供されています。子どもの状況に応じて上手く活用しましょう。

②フィルタリングの活用

携帯電話会社では、子どもがスマートフォンなどを利用する際に有害情報へのアクセスを制限する「フィルタリング」の設定を行っています。上手に活用して子どもの安全を守りましょう。

③家庭内ルールの設定

子どもとスマートフォンなどの利用場所・時間帯などを話し合い家庭内のルールを決めることです。ルールは子どもの成長に応じた制限レベルを設定しましょう。

子どもの性被害

具体的には、次のような被害が発生しています。

- ・SNSで知り合った相手から、わいせつな行為を要求され動画撮影されたうえに、不特定多数の者にこれ

らの画像を転送された。
・他人に見せない約束で自分の裸を自撮りし、友人に送信したところ、さらに別の者に転送され、その画像は広く拡散された。
画像は一度流出すると削除が困難です。「他人に個人情報を書き流さない」「下着姿や裸の写真を撮らない、送らない」ことを約束させましょう。



誘惑の多い深夜徘徊

子どもだけの外出には危険がたくさんあり、毎年、夏休み期間中は事件・事故が増加しています。具体的には恐喝や暴行、性犯罪などの被害に遭う危険もあれば、喫煙、飲酒などのきっかけとなる誘惑も潜んでいます。

さらに、悪い仲間と付き合いようようになり、窃盗、傷害、暴行などの犯罪に子ども自身がかかっています。

関わってしまう危険もあります。警察などでも補導活動などを行っています。家庭でも門限を決め夜遅くに子どもだけで外出しないことなどの約束ごとを決めましょう。

薬物乱用防止

以前はシンナーが薬物事案の入り口でしたが、今はインターネットなどで「有害ではない」「依存性はない」などの誤った情報で、大麻を安易に乱用するなどの例が後を絶ちません。薬物乱用の恐ろしさは、繰り返し使用することです。さらに使用を重ねたくなる薬物依存を引き起こすことあります。このようになると、自分の意志ではやめることができなくなり、身体と精神を破壊してしまいます。

日頃から子どもと薬物乱用の危険性を話し合い、覚醒剤や大麻、そして危険ドラッグなどには決して「近づかない」「持たない」「もらわない」「買わない」「使わない」という強い意志を持たせるようにしましょう。

夏休みは、特にこれらの非行に走りやすい傾向がありますので、子どもの行動を見守っていく必要があります。

筑紫野警察署からのお知らせ

還付金詐欺に 注意！

～アポ電の内容～

- 医療費や保険料の払戻があります
- 近くのATMへ行ってください
- あとで金融機関から電話があります
- ATMで手続きできます

こんな電話はすべて詐欺！すぐに相談・110番